

平成 2 8 年度事業報告書

社会福祉法人 緑友会

平成 2 9 年 5 月 1 6 日 監事監査済
平成 2 9 年 5 月 2 6 日 理事会承認済
平成 2 9 年 6 月 1 6 日 評議員会承認済

目 次

法人本部	3
理事会	3-4
法人運営状況	4-6
大規模修繕補助協議の進行状況	4-5
職員入退職	6
職員配置状況	7
職員研修（1 外部研修）	8-10
職員研修（2 内部研修）	11
職員研修（3 内部研修 特養非常勤職員）	12
職員研修（4 ヘルパー内部研修）	13
職員研修（5 研修委員会 総評報告）	14-16
防災訓練	17
小川ホーム	18-34
1. 入退所の状況	18-21
2. 処遇の状況	22-28
3. 研修生・ボランティアの受け入れと地域福祉	29
4. 各係	30-31
5. 栄養・給食関係	31-34
短期入所生活介護	35
小川ホームデイサービスセンター	36-39
1. 月別実績	36-37
2. 要介護度・年齢別利用者数	37
3. 移動方法別利用者数	37
4. 地域別利用者数	38
5. 行事	40
小川ホームホームヘルプサービス	40-42
小川ホーム介護計画センター	43-44
地域包括支援センター小川ホーム	45-50

法人本部

○理事会

法人及び各事業運営についての諸議案が審議、決議された。

回数	開催日	出席状況	主な議題
82	平成28年5月27日(金) 午後5時15分～	理事6名 監事2名	第1号議案 平成27年度 事業報告書(案) 第2号議案 補助金及び高額な取引に関する承認案 第3号議案 平成27年度 収支決算書(案) 第4号議案 本決算における施設・設備整備積立金に関する案 第5号議案 平成27年度 監事監査報告 資産証明額・資産登の承認案 その他の議案 3階の機械浴槽の更新に関する案 (労働局「職場定着支援助成金」の申請及び施設・設備整備積立資産の取崩に関する案)
83	平成28年11月25日(金) 午後5時15分～	理事6名 監事2名	第1号議案 平成28年9月20日実地検査結果の報告と是正について 第2号議案 平成28年9月20日実地指導指摘事項の改善について 【1】文書指摘による改善 ①第三者委員任命の遡及決議について ②廃棄財産処分(空調改修時)の遡及決議と遡及届出について 【2】当日指導による改善 ③経理規程現金保有額の制限について ④経理規程 資金の借入決議について ⑤預り金等取扱規程・小口預り金取扱規程の見直し 第3号議案 定款一部変更に関する案 第4号議案 平成28年度大規模改修の完了報告と補助金及び支払いについて 第5号議案 3階浴槽補助認定と積立金取り崩しの承認 第6号議案 事故対策等の為の防犯カメラの設置について その他の議案 ボイラー主要部品の緊急改修に関する案
84	平成29年1月27日(金) 午後5時15分～	理事6名 監事2名	第1号議案 評議員選任解任委員会運営細則の制定案 第2号議案 評議員選任解任委員の選任(案) 第3号議案 次期評議員候補者推薦(案) 第4号議案 役員、評議員、評議員選任解任委員の報酬に関する規程 改定及び作成(案) 役員報酬と評議員報酬の支給基準 評議員選任解任委員の報酬基準 各役員・委員に対する報酬の支払い方法の変更について 第5号議案 平成29年度業務委託 指名競争入札実施に関する案 ①給食サービス提供業務委託契約 ②洗浄業務付き寝具類の賃貸借契約 ③建築設備年間保守管理契約 第6号議案 平成28年度第1回補正予算(案) 第7号議案 緊急事象に対する警備業務を伴う防犯カメラの設置案 第8号議案 鈴木町1丁目国有地における介護施設整備事業事業者公募について
85	平成29年3月24日(金) 午後5時15分から	理事6名 監事2名 (内理事1名は書面決裁)	第1号議案 補助金交付決定及び高額な出納について(承認案) 第2号議案 評議員選任解任委員会開催結果の報告(承認案) 第3号議案 第三者委員 交替人事に関する案 第4号議案 平成29年度業務委託指名競争入札の実施報告・契約に関する案 第5号議案 定款施行細則(案)

			第6号議案	平成29年度 事業計画書（案）
			第7号議案	平成29年度 収支予算（社会福祉法人新会計基準による）（案）
			第8号議案	役員等を対象とした損害賠償責任保険の加入について

○評議員選任解任委員会(改正社会福祉法により新設)

回数	開催日	出席状況	主な議題	
1	平成29年2月19日(日) 午前10時～	外部委員・ 監事委員・ 事務局委員計3名 理事2名	第1号議案	委員会委員から委員長（議長）選出
			第2号議案	次期評議員候補者推薦書（様式1）の提案 評議員候補者履歴書に基づくの適任理由の説明 評議員任期の確認
			第3号議案	委員による評議員の選任決議 （評議員候補者一名ごとに選任決議）

○法人

社会構造改革において社会福祉法の一部を変える法律(改正社会福祉法)により、理事会承認と行政庁への申請の手順を踏んで定款を変更し、定款施行細則等の関連規則を改定し、評議員選任解任委員会によって評議員7名の選任を行った。

○法人理事・監事

平成28年度は任期中であり、平成28年3月18日（金）の理事会において予選し、平成28年3月26日から平成30年3月25日までの二年間の任期の役員は、次の通りの各氏となっている。

理事長 菅野徹夫

理 事 市東和子 白石欣彦 関谷栄子 高木好男 増田英男

監 事 基太村壽三郎 児島富士男

その後改正社会福祉法により、任期満了は平成29年6月開催の決算に関する定時評議員会の終結の時までと変更された。

○介護保険改正

平成29年度から処遇改善加算の内容の改正があり、新たに設定された処遇改善加算Ⅰの取得に向けて準備を行った。

○実地指導

平成28年9月20日に東京都と小平市による実地指導が行われ、第三者委員選任方法・財産処分手続き方法・特養の事故防止研修方法・短期入所生活介護計画書交付方法の4点に指摘事項があり改善の上報告を行なった。

○大規模改修補助協議の進行記録

平成28年4月1日	理事会（第81回）	一般競争入札落札者との契約(案)
平成28年4月5日	東京都福祉保健局	議事録複写発送
平成28年4月11日	落札者	契約締結
平成28年4月11日	工事開始	
平成28年4月21日～ 平成28年9月23日	毎週定例会	(株)新環境設計・(株)エフビーエス・施主

平成 28 年 6 月 14 日	計画変更申請	壁面亀裂補修箇所等の変更
平成 28 年 7 月 28 日	完了検査(上層部)	足場解体前の施主検査
平成 28 年 7 月 28 日	計画変更申請	空調室内機廃番のための変更
平成 28 年 9 月 15 日	消防設備立入検査	改修部分の消防署検査、消防署・(株)新環境設計・(株)エフビーエス・施主立会
平成 28 年 9 月 23 日	完了検査(下層部)	足場解体後の施主検査
平成 28 年 9 月 30 日	予定工事終了	
平成 28 年 11 月 16 日	東京都実地検査	都職員 3 名、施主、設計事務所、
平成 29 年 1 月 10 日	計画変更申請	熱感知器の台数及び仕様の変更
平成 29 年 1 月 13 日	補助額確定	46,819,000 円
平成 29 年 2 月 20 日	補助額受領	46,819,000 円
平成 29 年 2 月 24 日	自己負担額積立取崩	60,425,000 円
平成 29 年 2 月 24 日	補助額確定	(株)エフビーエスへの工事代金の支払い 10,724,400 円

○福祉サービスの第三者評価の受審

平成 28 年 8 月 2 日から 10 月 27 日にかけて、入所者への聴き取り調査、職員及び管理者への分析シート調査等を実施した。調査機関は協同組合建設経営センターで、介護サービス情報同様に東京都福祉サービス評価推進機構のホームページに掲載され公表されている。

○協力医療機関と嘱託医師

平成 28 年度は、協力医療機関として以下のとおり来訪により診療等を実施した。

南台病院 内科 下山克也医師	小川クリニック 内科 小川哲史医師
あきやま子どもクリニック 内科 後藤雄一医師	小平仲町クリニック 精神科 伊藤敬雄医師
島田療育センターはちおうじ 整形外科 菅野徹夫医師	
パール歯科 歯科 輪番担当医	南台病院 産業医 山田克浩医師

○インフルエンザ・ノロウイルス等の感染対策

インフルエンザの流行に備え、特養利用者及び職員全員を対象に南台病院に委託し、1 月 16 日、30 日、12 月 7 日の 3 日間に下山医師の来訪時に予防接種を行った。しかしながら 29 年 3 月 23 日以降、職員 11 名と利用者 12 名に主に A 型感染が発生し、保健所の指導の下 4 月 17 日終息した。

またノロウイルス対策として、一年を通しリバルス希釈液他による噴霧・拭き上げの感染予防策の実施を行ってきた結果、発生を抑えることができている。

○交換研修会の実施

あきる野市の草花苑と協約を結び、職員の交換研修を平成 24 年度以降実施している。本年度も継続して行い、9 月 1 日～5 日間に渡り特養の介護員一名の派遣研修を行った。

○東京労働局 職場定着支援助成金の採択

標記の介護福祉機器助成の採択を 9 月 1 日に受け 3 階介護寝台浴槽(ロベリア昇降浴槽スタンダード ROB-401L)を 9 月 16 日に設置導入が完了した。

○小平市 平成28年度 地域介護・福祉空間整備推進交付金の採択

標記の助成の採択を12月9日に受け、3月27日に以下の納品が完了した。

パラマウント ベッドKA-35123F・NL-100・NU200 他付属×3式

○介護予防・日常生活支援総合事業

全国において標記の事業が徐々にスタートしており、小平市では平成28年3月1日から制度の導入となった。小平市では今後要支援者の認定の更新の際に、標記のサービスに移行していくこととなり、また、新規に総合事業対象者となる場合もある。各市町村により移行の政策が異なり、小平市のように個々の要介護認定の際に一年がかりで切り替えを行う市と、東村山市のように年度替わりに全員移行する方式などもあり、料金についても一月単位や回数単価計算などまちまちで、また介護保険請求に関しても極めて複雑になり、介護保険上の専門職といえども、短期に完璧な把握をすることは困難な状況が続いている。

○訪問の際の電動アシスト自転車の導入

衛生委員会での審議等を経て、働きやすい職場づくりと活動力のある訪問事業の充実のため、平成27年度と28年度に各2台ずつ導入している。

○防犯カメラ及び防犯警備システムの導入

近県で発生した凶悪事件をきっかけとして施設における防犯活動が見直され、行政からの推奨もあり、㈱セコムと契約し、防犯カメラ複数台の設置と、緊急通報システムを設置し、平成29年2月27日から稼働を開始した。

法人職員人事（異動・昇格）

生活健康課健康係副主任	後任なし	H28. 8. 31 異動：塩野谷 誠
前任なし	地域包括支援センター ケアマネジャー	H28. 9. 1 異動：塩野谷 誠
生活健康課健康係長	後任なし	H29. 3. 31 定年退職：安川綾子

職員入退職（常勤職員）

職 種	入職者	日付	職 種	退職者	日付
介護職員	藤田聖子	H28. 4. 1	介護職員	藤田聖子	H28. 4. 30
ケアマネジャー	村越和彦	H28. 4. 1	ケアマネジャー	村越和彦	H28. 4. 30
介護職員	板井雅俊 (非常勤より身分変更)	H28. 4. 1	介護職員	小林慎一	H28. 7. 31
介護職員	齋藤美佐	H28. 4. 11	介護職員	吉田英美	H28. 9. 30
ケアマネジャー	熊 勝子	H28. 6. 1	介護職員	匿名要請	H28. 11. 21
介護職員	小林慎一	H28. 6. 6	介護職員	宇田川 忍	H28. 12. 31
介護職員	宇田川 忍	H28. 7. 1	介護職員	柳葉志穂	H29. 1. 31
介護職員	匿名要請	H28. 9. 1	ケアマネジャー	熊 勝子	H29. 2. 2
介護職員	恩田 諭	H28. 12. 1	介護職員	安川綾子	H29. 3. 31
介護職員	柳葉志穂	H28. 12. 1			

職員配置状況

平成29年3月31日現在

職 種	介護老人福祉施設 (短期入所を含む)		通所介護		訪問介護	
	基準	定員	基準	定員	基準	定員
施設長	1	1				
事務員		2 [内兼務 1]				
看護職員	3	4[内兼務 1] (2)	1 (1)	(2(内兼務 2)) ※特養連携あり		
相談員	1	1	1 (1)	3 [内兼務再掲 2]		
介護職員	24	22 (17)	6	1[内兼務 1] (13)		
ヘルパー					4 (17)	4 (17)
介護支援専門員	1	[兼務 6]				
管理栄養士	1	1				
医師	必要数	(4)				
精神科医師	(1)	(1)				
訓練指導員	1	1[内兼務 1] (1)	1	1 (再掲 2 (内兼務 再掲 2))		
整備員		(8)				
業務員		(4)				
警務員		(6)				
専従運転士				(2)		
計	32 (1)	32 (43) [兼務 9]	9 (2)	3 (17)	4 (17)	4 (17)

職 種	居宅介護支援		地域包括支援	
	基準	定員	基準	定員
事務員			(1)	1
看護職員			1	2
相談員			2	2
介護支援専門員 ※主任 CM 含む	5 (2)	5 (3) [他兼務 1]	2 (4)	3 (2)
計	5 (2)	5 (3) [他兼務 1]	5 (5)	8 (2)

() は非常勤職員

※基準は介護保険法に照らし、同時に当サービスの利用者数の現況を満たすだけの必要人員を表現している。

職員研修

(1) 外部研修

研修内容	研修主催者	研修者	研修日 (1 日目)	その他 (2 日目以降)
認定調査員研修	東京都	山岸栄子	H28. 4. 19	
第 1 2 回統合ケアマネジメント事例検討会	国立社会保障・人口問題研究所	佐藤実	H28. 5. 10	
第 1 3 回統合ケアマネジメント事例検討会	国立社会保障・人口問題研究所	佐藤実	H28. 6. 7	
「在宅医と話そう」 自分たちが大切にして いる事	ひまわりネット在宅 ネットワーク	佐藤実	H28. 6. 7	
介護サービス事業所連 絡会	小平市健康福祉部高齢者 支援課	平間亜矢子・大橋慧媛 熊勝子・横山真希	H28. 7. 14	
小平ケアマネ連絡会 研修①～④	小平市健康福祉部高齢者 支援課	上田典子 (②～③) ・ 平間亜矢子 (全) ・ 佐藤実 (②④)	H28. 7. 15	他全 4 日
東京都介護支援 専門員更新研修	東京都介護支援専門員 研究協議会	野本琢也	H29. 8. 2 H29. 8. 19 H29. 8. 31	H29. 9. 29 H29. 10. 5 H29. 10. 25
介護支援専門員更新 研修課程Ⅱ	東京都介護支援専門員 研修協議会	池田まゆ美	H28. 8. 6	他全 5 日
安全の移乗介助を行う ために	東京都高齢者福祉施設 協議会	石原裕介	H28. 8. 29	
第 4 回東京都認知症介 護リーダー研修	東京都福祉人材センター	野島邦義	H28. 9. 6	他全 8 日
要介護 1, 2 と生活援 助サービスのあり方を 考える	東京在宅福祉・介護 フォーラム実行委員会	横山真希	H28. 9. 7	
介護サービス事業者支 援研修会	東京都国民健康保険団体 連合会	横山真希・池高真一	H28. 9. 14	
豊かなケアプランを作ろう ～クライアントを表現する 第 2 回	小平ケアマネ連絡会	佐藤実	H28. 9. 16	
地域ケア会議などの 多様な会議の進行 スキルを学ぶ	東京社会福祉士会	中野香美	H28. 9. 25	
生活とリハビリテー ション	小平市在宅医療介連携 推進協議会	佐藤実	H28. 9. 28	
第 1 6 回統合ケアマネ ジメント事例検討会	国立社会保障・人口問題 研究所	佐藤実	H28. 10. 4	
ALS の発達障害とコミ ュニケーション支援	東京都多摩小平保健所	池田まゆ美・山岸栄子	H28. 10. 5	
アルコール依存症の 理解と対応	東京都多摩小平保健所	中野香美・平間亜矢子・ 宮永桃子	H28. 10. 11	
東京都主任介護支援 専門員更新研修	東京都介護支援専門員 研究協議会	佐藤実	H28. 10. 11	他全 8 日
地域包括支援センター 実践能力向上研修	長寿社会開発センター	横山真希	H28. 10. 13	

精神障がい者の特性を学ぶ・統合失調症中心に	小平市福祉人材養成講座	平間亜矢子・加藤桂子	H28. 10. 13	
知っていますか？疥癬	東京都多摩小平保健所	杉本百合子	H28. 10. 13	
つぎにつながる講座の つくり方	東京都社会福祉協議会	中野香美	H28. 10. 18	
なぜするどうする ADL体操	ADL対応型高齢者体操 研究会	松田弥生	H28. 10. 18	
コウノメゾットってど んなことするの？！	東京都訪問看護 ステーション協議会	大橋慧媛・大野友紀・ 池高真一・加藤希	H28. 10. 21	
デイサービス新任職員 研修	東京都社会福祉協議会	小原奈津子・田原みどり	H28. 10. 25	
介護報酬請求事務に 関する研修会	東京都社会福祉協議会	長島弘樹	H28. 10. 21	
精神障がい者の特性と支 援方法を学ぶ	小平市健康福祉部生活 支援課	木上利恵子・平間亜矢子・ 野沢喜美子・加藤桂子	H28. 10. 28	
小平市福祉人材養成 講座	小平市	加藤桂子	H28. 10. 28	
第17回統合ケアマネ ジメント事例検討会	国立社会保障・人口問題 研究所	佐藤実	H28. 11. 1	
生活支援コーディネー ター養成講座	東京都福祉保健局	中野香美	H28. 11. 9	H28. 11. 10
精神保健福祉研修	東京都立多摩総合精神 保健福祉センター	横山真希	H28. 11. 10 H28. 11. 11	H29. 1. 13 H29. 1. 30
認知症介護セミナー	(福) 浴風会	横山真希・木上利恵子	H28. 11. 14	
経口維持加算に関する 研修会	東京都社会福祉協議会	住友満美子	H28. 11. 15	
精神障がい者ホームヘ ルパー養成研修会	小平元気村おがわ東	平間亜矢子・上田典子・ 大橋慧媛・佐藤実・池田 まゆ美・宮永桃子・山岸 栄子・加藤桂子・野澤喜 美子・松井清美・羽根ル ミ子・宮崎由希	H28. 11. 10 H28. 11. 11 H28. 11. 17 H28. 11. 24	左記のいず れか一日
地域包括支援センター 職員課題別研修	長寿社会開発センター	永畑加代子	H28. 11. 21	
いつまでも口から食べ られるために	小平市在宅医療介護連携 推進協議会	大野友紀・池高真一・ 平間亜矢子	H28. 11. 24	
慢性呼吸器機能障害の 理解と支援講習会	東京都心身障害者福祉セ ンター	大橋慧媛	H28. 11. 29	
成人のアレルギー疾患 に関する相談実務研修	東京都健康安全研究セン ター	横山真希	H28. 12. 1	
小平市ケアプラン研修 全体研修～リ・アサメント シートを活用して～	小平市	上田典子・宮永桃子・ 平間亜矢子	H28. 12. 6	H28. 12. 13
東京都社会福祉協議会 相談係ブロック会	東京都社会福祉協議会	高橋利枝	H28. 12. 9	
通所介護生活相談員ス キルアップ研修会	お茶の水ケアサービス学 院	池高真一	H28. 12. 12	

要介護独居者をどう支えるか	小平市在宅医療介護連携推進協議会	佐藤実	H28. 12. 17	
ケアプラン点検リ・アセスメント支援シート	小平市	宮永桃子・池田まゆ美	H29. 1. 13	他全 2 日
認知症講座	警視庁職員互助会組合	池田まゆ美	H29. 1. 14	
てんかんセミナー	国立精神神経医療研究センター	横山真希	H29. 1. 30	
薬と介護	小平市在宅医療介護連携推進協議会	上田典子・平間亜矢子	H29. 1. 28	
高齢化した精神障害者の支援	東京都立多摩総合精神保健福祉センター	横山真希	H29. 1. 30	
東京都地域包括支援センター職員研修	東京都福祉保健財団	横山真希	H29. 2. 2	H29. 2. 3
東京ホームタウン大学	東京都福祉保健局	中野香美	H29. 2. 4	
安心して暮らせる地域づくり	白梅学園大学	中野香美	H29. 2. 5	
第 20 回統合ケアマネジメント事例検討会	国立社会保障人口問題研究所	佐藤実	H29. 2. 7	
送迎車両安全運転講習会	日本福祉車両協会	鹿内真由美	H29. 2. 12	
東京都認知症介護基礎研修	東京都福祉人材センター研究所	武藤光仁・村山大輔・進藤麻帆	H28. 2. 13	
脳神経外科講演会	多摩北部医療センター	加藤希・大橋慧媛	H29. 2. 13	
通所介護生活相談員スキルアップ研修会	お茶の水ケアサービス学院	池高真一	H29. 2. 13	
東京都認知症介護実践者研修	東京都福祉人材センター研究所	石原裕介	H29. 2. 16	他全 6 日
ここまで良くなるパーキンソン病	小平市医師会	大橋慧媛	H29. 2. 18	
デイサービス専門職員として明日何をすのかを決める会	東京都社会福祉協議会	池高真一・加藤希	H29. 2. 23	
多職種連携研修会	小平市在宅医療介護連携推進協議会	上田典子・平間亜矢子	H9. 3. 4	
生活支援コーディネーターの協働を考える	東京都高齢者福祉施設協議会	中野香美	H29. 3. 8	
北多摩北部地域リハビリテーション支援センター研修会	小平市健康福祉部	横山真希・塩野谷誠・上田典子	H29. 3. 9	
第 21 回統合ケアマネジメント事例検討会	国立社会保障人口問題研究所	佐藤実	H29. 3. 14	
小平市市民講座「認知症と歯科」	小平市歯科医師会	平間亜矢子	H29. 3. 18	
暮らしの場における看取りのための多職種向け研修（基礎）	東京都福祉保健局高齢社会対策部	大橋慧媛	H29. 3. 23	
高次脳機能障害とリハビリテーション	小平市高次脳機能障害支援担当者連絡会	平間亜矢子・宮永桃子・上田典子・横山真希	H29. 3. 30	

(2) 内部研修

研修内容	講師	研修者	研修日
メンタルヘルス ストレスと上手に 付き合いのために	小川祐子	高橋利枝・鎌田英子・菊池孝明・塩野谷誠・ 小宮山恵子・古川千鶴子・一條裕・武藤光仁・ 矢村恵美・杉本百合子・木上利恵子・中野香美・ 上田典子・出井かおり・宮崎由貴・加藤満子・ 中村敏子・坂田しのぶ・横山真希・佐藤実・ 平間亜矢子・永畑加代子・大橋慧媛・ 池田まゆ美・加藤希・池高真一・大野友紀・ 野本琢也・羽根ルミ子・佐藤留美子・高原好子・ 松野智子・原本敦子・斉藤与志子・豊嶋尚美・ 鈴木今日子・森本由紀子・丸山朗美・仁科優子・ 宮川ユキ子・上條悦子・野澤喜美子・ 加藤ななゑ・赤井日出代・松井清美・熊勝子・ 小林美穂・松田弥生・野島邦義・井澤優子・ 相原和典・村山大輔・田倉已幸・齋藤美佐・ 石原裕介・	H28. 7. 5
法人交流研修	草花苑	山田芽美	H28. 9. 1～6
相互交換研修	特養ショート 各事業職員	宮崎由貴	H28. 10. 4 H28. 11. 7
相互交換研修	在宅サービス 各事業職員	武藤光仁	H28. 10. 17 H28. 11. 16
安全確保とリスク マネジメント	山屋恵美子	横山真希・木上利恵子・出井かおり・松田弥生・ 池田まゆ美・大橋慧媛・大野友紀・池高真一・ 加藤希・佐藤実・上田典子・平間亜矢子・ 中野香美・小林美穂・永畑加代子・宮永桃子・ 野本琢也・塩野谷誠・矢村恵美・武藤光仁・ 塩崎佳子・小宮山恵子・相原和典・一條裕・ 鎌田英子・菊池孝明・柳葉志穂・高橋利枝・ 井澤優子・野島邦義・高橋直樹	H28. 12. 14 H29. 1. 10
介護事故予防研修	田倉已幸 野島邦義	進藤麻帆・川野美紀・武藤光仁・村山大輔・ 菊池孝明・匿名要請・宇田川忍・相原和典・ 齋藤美佐・井澤優子・塩崎佳子・板井雅俊・ 一條裕・田倉已幸・岡田祐子・山田芽美・ 翁長留美子・小宮山恵子・石原裕介・鎌田英子・ 矢村恵美・高塚義久・池沢美幸・橋達之・	H28. 10. 11 H28. 10. 17 H28. 10. 24 H28. 11. 4 H28. 11. 11
感染症予防研修 (食中毒)	杉本百合子	菊池孝明・進藤麻帆・相原和典・石原裕介・ 武藤光仁・田倉已幸・安川綾子・小宮山恵子・ 一條裕・池沢美幸・鎌田英子・板井雅俊・ 岡田祐子・齋藤美佐・村山大輔・高塚義久・ 井澤優子・橋達之・塩崎佳子・山田芽美・ 川野美紀	H28. 7. 28 H28. 8. 12
感染症予防研修 (嘔吐処理)	杉本百合子	一條裕・小宮山恵子・塩崎佳子・橋達之・ 相原和典・恩田諭・柳葉志穂・安川綾子・ 田倉已幸・鎌田英子	H28. 12. 22
シナリオロールプ レイ（身体拘束廃 止委員会）	鎌田英子 田倉已幸 高塚義久	古川千鶴子・石原裕介・村山大輔・齋藤美佐・ 山田芽美・武藤光仁・相原和典・菊池孝明・ 橋達之・一條裕・池沢美幸・進藤麻帆・ 岡田祐子・板井雅俊・小宮山恵子・山崎理恵・ 菅洋子・匿名要請・宇田川忍	H28. 4. 27 H28. 6. 29 H28. 7. 26 H28. 8. 31 H28. 9. 29 H28. 11. 24

(3) 特養非常勤職員内部研修

※ 本研修はパート介護職員のスキルアップ研修として位置付けており、生活健康課生活系の副主任以上が講師を務め、個別研修計画書に基づき研修を実施しています。

※ 研修種別は次の通りで実施する。

1. 業務中に指導的職員からの指導・助言による技術等の習得
2. 業務中に指導的職員からの集団講義等による技術等の習得
3. 法人の研修委員会の実施する研修会の聴講による倫理等の取得
4. 法人が指定し所有する研修教材の視聴による知識等の習得

※ なお、法人研修・内外部研修は前記(1)(2)の表に記載しています。

★＝法人研修、●＝内外部研修、▲＝新人研修

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
研修テーマ	倫理綱領	身体介護の基本	自立支援のための介護の知識	感染症について	認知症の症状対応別対処法	動きと重心の理解 「立ち上がり編」	事故予防のための対策	動きと重心の理解 「起き上がり編」	動きと重心の理解 「スライディングボード編」	異食行為について	褥瘡の予防ケア	老人性うつとアルツハイマー
浅井知子	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
半谷三千代	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
佐藤栄子	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
山崎理恵	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
菅洋子	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
吉川夏	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
篠崎有華	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
半谷千恵子	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
中村早苗	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
甲さつき	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
石井和代	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
加納希望	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
鈴木由美子	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
久住真理	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
阿部稜	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
大滝晴美	-	-	-	-	○	○	○	○	○	○	○	○
比嘉英美	-	-	-	-	-	-	-	-	○	○	○	○
本田礼子	○	○	○	○	○	○	○	○	○	-	-	-
岡田美希	○	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
梅原竜也	○	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

(4) ヘルパー内部研修

※サービス提供責任者が講師を務め、以下の研修会を開催しています。

※法人研修・外部研修は前記(1)(2)の表に記載しています。

年	H28					H29		
月	4	5	7	9	10	1	2	3
日	12	17	5	13	11	10	7	14
研修テーマ	終末期の看取りについて②	認知症を学び地域で支えよう	メンタルヘルス(ストレスと上手に付き合うために)	共に生きる81歳ヘルパーの決意(DVD)	24時間訪問看護(DVD)	リスクマネジメント	終末期の看取りについて③	ユマニチュードについて・ピュアカウンセリング(同じ立場で語り合う)仕事の悩み
講師： サービス提供責任者	松井清美 (サ責)	野澤喜美子 (サ責)	小川祐子 (外部講師)	松井清美 (サ責)	松井清美 (サ責)	山屋恵美子 (外部講師)	野澤喜美子 (サ責)	永畑加代子 (包括)
中村 敏子	○	○	○	休	○	○	休	○
佐藤 留美子	○	休	○	休	○	休	○	退職
柏木 あけみ	H	○	○	H	○	休	H	休
高原 好子	H	○	○	H	○	○	H	○
広田 祐子	○	○	休	○	○	○	休	○
松野 智子	○	○	○	○	○	○	○	退職
原本 敦子	○	○	○	○	○	○	○	○
齊藤 与志子	○	○	○	○	○	○	○	○
上條 悦子	○	○	○	○		○	○	○
豊嶋 尚美	○	○	○	休	○	○	○	○
増田 いずみ	○	○	○	○	○	○	○	○
坂田 しのぶ	○	○	○	○	○	○	○	○
鈴木 今日子	○	休	○	休	○	○	○	○
廣田 公雄	H	休	休	H	休	休	○	休
森本 由紀子	○	○	○	○	○	○	○	○
丸山 朗美	○	○	○	休	○	○	○	○
加藤 満子	○	○	○	○	○	○	○	○
加藤 ななゑ	○	休	○	○	○	休	○	○
王 影欣	○	○	休	○	休	○	休	○

(5) 研修委員会 総評報告

平成28年度 研修委員会 総評報告

《総括》

今年度の研修においても、基本的に法人の研修課題について、テーマを絞り行ってきた。毎年、研修委員の中で、各部署の課題から法人全体の課題に絞りこみながら、これなら全体で共有が出来る内容を挙げてきた。

法人全体研修の大前提としては、職種、職域の垣根を越えて各部署の職員が集まる場でもあり、考え方や意見の違いがある事により、自分とは違う、「学び」や「気づき」は感じる事であろう。同一法人においての基本となる共通の考え方のベースは持っていなければならない。例えて言うなら、現場において、介護技術があれば、利用者を知っていなくとも介護が出来てしまう。介護をするうえで、その利用者を知る意味やその人の価値やこだわりを考えていかなくてはならないと思うからだ。その上に、知識や技術が積み重なってくる事だと思う。この意味からも法人全体の研修において必要性はある。

ただ、施設と在宅においても大きな違いがあり、又在宅の中でも職種や業務内容が分かれているので一つのテーマとして研修していく事の難しさを感じている。極力、各部署にもまたがる内容で共通事項のテーマに絞り行なった。

その中で、上半期は「メンタルヘルス研修」と下半期は「安全確保とリスクマネジメント」についてを学んだ。

参加人数においては、職員の意識も少しずつ変わってきており、研修に対する姿勢が変わりつつあるが、まだ、部署ごとにばらつきは見られる。参加する職員と参加しない職員との両極になっている。各部署で個別に促して行く事が重要になってくる。

介護保険の報酬改正で、職員の処遇改善加算の改定があった。「キャリアパス要件」や「職場環境要件」を満たしていく必要もあり、研修体制の強化や非常勤職員に対してもチャレンジシートが必要にもなってくる。この事からも、部署ごとの研修や法人全体の研修の両輪で取り組んでいく必要もある。

ぜひ、法人研修の機会を活用して、職員一人ひとりの資質の向上を図っていければと思う。今年度の研修内容の詳細は以下の通りである。

【外部講師を招いたOFF—JT研修】

● 第一回 法人研修

テーマ：メンタルヘルス研修

～ストレスと上手に付き合うために～

日 程：平成28年 7月 5日（火）

時 間：18時～20時

講 師：介護労働安定センター 雇用管理コンサルタント

一般社団法人 日本産業カウンセラー協会 東京支部

登録講師 小川祐子 先生

参加者：計58名

研修実施報告

本研修では心の健康管理を目的に、自分自身がストレスの存在に気づき、それに対処するための知識と方法を身に付け実施するセルフケアの考え方を中心に学ぶことができた。

講義の中で、ストレスに起因する自身の気持ちや考え方に対して、見方や視点を変えることの重要性や感情をコントロールするために副交感神経を意識的に働かせる方法は、ストレスという見えない物が理論的に説明されていたため、職員1人ひとりが自身のストレス特性を客観的に覚知することができたのではないかと研修報告書を見て感じ取れた。

近年、ストレスに悩まされている人は多く社会的にも問題となっている。ストレスの存在や原因、さらにはストレスに起因する感情が明確にできない人やストレスフルの状態でも、そのことに目を向ける余裕がない人もいる。特に介護は感情労働であることから、日々ストレスを受けやすい仕事である。職員の心の状態は介護の質に影響するため、心の充実が極めて大切であることを改めて認識することができた研修であった。

● 第二回 法人研修

テーマ：「安全確保とリスクマネジメント」（リスクマネジメント研修）

日 程：平成28年12月14日（水） / 平成29年 1月10日（火）

時 間：18時～20時

講 師：宇都宮短期大学 人間福祉学科

介護福祉専攻 准教授 山屋恵美子 先生

参加者：計30名

研修実施報告

利用者は常に潜在的リスクを有している。本研修では、その潜在的リスクを顕在化させ

るために、職員一人ひとりの危険に関する「気づきの感性」、リスクマネジメントの考え方を学ぶことができた。

講義の中で、「事故を防ぐにはヒヤリ・ハッとした体験が重要である」という言葉の通り、潜在的リスクにいかに関心を持てるかが大切である。更には人の生活の質を向上させるためには、事故防止のためのリスク管理とケアマネジメントがしっかり出来ていれば事故防止の方策にもなるということも再認識できた。

近年、利用者の重度化や認知症を有する利用者の増加等により、事故の傾向が変化しつつある。リスクマネジメントは、サービスを受ける方に安全で質の高い生活を提供するためには必要不可欠な「安全対策」と言える。また利用者の心身介護事故は、利用者の心身のダメージを負わせてしまうばかりか信頼も失ってしまうことにも繋がることを、我々は理解していなくてはならない。

我々の仕事は利用者あってこそその仕事。介護プロとして利用者一人ひとりの安全についても今以上に意識していく必要があると考えさせられた研修であった。

《法人内 職員交流研修》

【研修者】

- ・ 宮崎由貴（ヘルプ職員）
- ・ 武藤光仁（施設職員）

【実施期間】

平成28年10月 4日・11月 7日
平成28年10月17日・11月16日

※実施報告については、各職員研修報告書参照

《他法人 交流研修》

【研修者】

- ・ （派遣）山田芽美

【実施期間】

平成28年9月1日～6日

※ 今年度、草花苑からの派遣はありませんでした。

以上のことを報告し、今年度研修報告とする。

(6) 防災訓練

実施日	訓練内容	参加者
平成28年9月1日 14時20分 から 15時00分 まで	26平予第164号通達に基づく夜間想定 総合訓練 ①特養にあつては夜勤者しか居ない時間帯 を想定し、消火活動を迅速に行い、一方では 近年認知症等で中重度介護を要するよう になった利用者の安全誘導及び担架・車い す救護を行う。今回は引き続き特に近年増 加している非常勤介護にも重きを置き、避 難誘導・防火設備とAED取扱い・初期消 火行動を訓練し、防火防災活動等の日常か ら行えるように訓練を実施したい。また、 有事に備え確実に機材取扱いができる様、 消火栓で実放水訓練を行う。 ②デイサービスにあつては日中を想定し、 利用者の一斉誘導を行うとともに点呼の実 施を行う。極力不安を与えないで、移動行 動が交差しないよう留意し実施する。	防火管理責任者 施設長 生活健康課長 を含む 施設職員 計23名 利用者(特養)20名 (デイ)20名
平成28年11月14日 14時00分 から 15時30分 まで	「小平消防署における社会福祉法人等に対 する防火安全対策講習会」に参加した。 ①社会福祉法人における発災研修 ②AED活用研修 ③救急事案発生時の対応研修	防火管理責任者1名
平成28年11月22日	停電想定発電訓練 ○電気設備点検日に実際に外部電源の喪失 の中で、発電機を運転し発電及び灯光、医 療機器、電話交換主機への送電訓練を実施 した。あえて事前準備をしない中で、機器 材の保存場所や取扱いに手慣れた職員によ り訓練を行った。移動型発電機を使用して 約1時間で仮設通電可能となった。	防火管理責任者 他3名
平成29年3月22日 14時00分 から 15時30分 まで	夜間想定総合訓練 ①夜勤時間帯を想定し、消火器と消火栓 での初期消火と、中重度介護を要する利 用者の安全誘導、布担架と2名手運び救 護、仮設担架をその場でつくり救護移動 の訓練を行った。特に経験の浅い介護ス タッフに重きを置き、避難誘導・防火設 備取扱い・初期消火行動を訓練し、防火 防災活動等を日常から行えるように訓練 を実施した。また、有事に備え確実に機 材取扱いができる様、消火栓で実放水訓 練を行った。 ②デイサービスにあつては日中を想定 し、利用者の一斉誘導を行うとともに点 呼の実施を実施した。センターは一階で 横移動避難しやすいが、転倒等の二次的 事故にならないように配慮しながら避難 を行った。	防火管理責任者 施設長 を含む 施設職員 計14名 利用者(特養)10名 (デイ)20名

指定介護老人福祉施設 小川ホーム 事業報告

運営概況

当施設において、今年度の事業目標は「入所稼働率98%以上確保」として設定したが、約1.2%目標に届かなかった。その要因としては、入所者の重度虚弱化と所期間の通減（入院の長期化、入所期間の短期化等）である。しかし稼働率だけをみれば昨年より0.4%向上しているが、昨年度対比において入所者うち介護度4・5の占める割合は10%弱増加し、入院日数も平均30日を超え、長期療養が必要と当施設を退所されるケースも増えた。

しかし稼働率だけをみれば昨年より0.4%向上している。これは円滑な入所ができたこともさることながら、入所者の健康管理についても一定の成果があったと言える。事実、入院者数は昨年より減少している。さらに受診回数は1000件を超えた。この数字から言えることは、重症化する前に適切に医療介入ができた結果であると考ええる。

今後、特別養護老人ホームは更に入所者の重度化が予測される。また身体機能や認知機能の低下、摂食機能の低下により、事故や体調を崩す方も増える可能性がある。今いる入所者の方々がより長く施設で生活できるよう、次年度も健康面及び介護事故予防に対して力を入れ取り組んでいきたい。

以上、今年度の事業報告と致したい。

1. 入所者の状況

(1) 月別入所実績

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
件数	75	72	72	75	70	75	75
延べ人数	2,097	2,166	2,112	2,098	2,125	2,148	2,259
1日当り	69.9	69.9	70.4	67.7	68.5	71.6	72.9
	11月	12月	1月	2月	3月	合計	※27年度
件数	76	75	75	73	74	887	893
延べ人数	2,173	2,239	2,184	2,004	2,207	25,812	25,753
1日当り	72.4	72.2	70.5	71.6	71.2	70.7	70.4

＝以下統計資料は平成29年3月31日現在の入所者を対象＝

*長期入院者が常に発生するため先行入所しており、2名増で統計しています。

(2) 介護保険者（市・区）別入所者

	措置制度からの継続		介護保険制度後の入所		計
	男性	女性	男性	女性	
小平市	1	0	13	56	70
他市区	0	0	1	4	5
計	1	0	14	60	75

(3) 入所理由

	男性		女性		計	
	主たる理由	従たる理由	主たる理由	従たる理由	主たる理由	従たる理由
身体的	2	5	17	5	19	10
精神的	3	0	20	19	23	19
経済的	3	3	3	2	6	5
家庭的	7	6	19	33	26	39
住宅的	0	0	1	1	1	1
その他	0	1	0	0	0	1
計	15	15	60	60	75	75

(4) 入所前の状況

入所前の状況	男性	女性	計
措置継続（小川ホーム入所継続）	1	0	1
病院から入所（介護保険以降）	2	9	11
自宅から入所（介護保険以降）	2	28	30
老人保健施設から入所（介護保険以降）	4	13	17
その他から入所（介護保険以降）	6	10	16
計	15	60	75

(5) 退所理由

理 由	男性	女性	計
家族引取り	0	0	0
長期入院	0	3	3
施設内死亡	0	2	2
入院後死亡	1	10	11
その他	0	1	1
計	1	16	17

(6) 生活福祉受給状況

種 別	男性	女性	計
全面生活保護受給	0	0	0
医療費単独給付受給	3	5	8
計	3	5	8

(7) 要介護度等の状況

a. 要介護度の内訳

	措置制度継続		介護保険後入所		計	
	男性	女性	男性	女性	男性	女性
要介護 1	0	0	0	1	0	1
要介護 2	0	0	1	8	1	8
要介護 3	0	0	4	13	4	13
要介護 4	0	0	6	21	6	21
要介護 5	1	0	3	17	4	17
計	1	0	14	60	15	60
介護度平均	5.00	0.00	3.78	3.75	3.86	3.75
総員介護度平均	3.77					
介護度 4・5 の占める割合	64.00%					

b. 障害高齢者の日常生活自立度

障害自立度	状況	男性	女性	計
J1	生活自立	0	0	0
J2		0	2	2
A1	準寝たきり	2	16	18
A2		4	14	18
B1	寝たきり	1	11	12
B2		3	19	22
C1		3	8	11
C2		2	5	7
計		15	60	75

c. 認知症高齢者の日常生活自立度

認知症自立度	男性	女性	計
自立	0	2	2
I	1	0	1
II a	1	0	1
II b	3	13	16
III a	4	19	23
III b	1	15	16
IV	3	7	10
M	2	4	6
計	15	60	75

(8) 障害者手帳取得状況

種 別	人数
1 級	3
2 級	3
その他の障害	8
手帳なし	61
計	75

(9) 年齢構成

年齢	男性	女性	計
6 5 歳未満	1	0	1
6 5 ～ 6 9	1	0	1
7 0 ～ 7 4	1	0	1
7 5 ～ 7 9	4	1	5
8 0 ～ 8 4	1	13	14
8 5 ～ 8 9	3	17	20
9 0 ～ 9 4	2	20	22
9 5 以上	2	9	11
計	15	60	75
平均年齢	82. 2	88. 9	87. 57

2. 処遇の状況

【日常生活援助】

(1) 排泄 プライバシーの保全、尊厳を損なわない配慮をしながら援助

項目	日 中			夜 間		
	男	女	計	男	女	計
自立	1	11	12	0	11	11
トイレ誘導	0	11	11	1	7	8
ポータブル介助	0	0	0	1	3	4
尿・便器介助	11	25	36	1	4	5
オムツ	2	12	14	11	34	45
その他	1	1	2	1	1	2
計	15	60	75	15	60	75

さりげなく、暖かく、しかも注意深くプライバシーを守ることがを重視し、個々にあった援助を行っている。日々の対応で尿、便意がある方をケースミーティングに取り上げ、自立へ移行するように、職員の意思統一を図り努めている。また、コストダウンも考え、数社の紙おむつサンプルを取り寄せ、品質と価格の検討も行いました。今後も常に良い方法を考慮していきたい。

(2) 更衣 残存機能と清潔保持に努めている。

項目	男	女	計
自立	1	8	9
一部介助	5	20	25
全介助	9	32	41
計	15	60	75

一部介助 衣類を準備し障害の程度に応じて介助する方

全介助 疾患により自ら行えない方

(3) 洗面

項目	男	女	計
自立	0	11	11
一部介助	7	22	29
全介助	8	27	35
計	15	60	75

一部介助 洗面所に誘導し、タオルで拭ける方（声掛けを含む）

全介助 タオルにて介助

(4) 口腔ケア 口腔清拭保持と状態観察

項 目		男	女	計
自 立		1	14	15
要 介 助	声かけ	2	1	3
	うがい	0	1	1
	義歯	4	22	26
	綿棒	0	1	1
	歯磨	8	17	25
	コットン	0	4	4
計		5	60	75

声かけ 声かけして歯ブラシに歯磨き粉をつけて促す
 洗 口 歯のない方はシンリング（すすぎ、うがい）を実施
 義 歯 職員が歯ブラシで洗浄，うがい介助，夜間はポリデント洗浄
 綿 棒 歯ぐきの弱い方，歯ブラシを痛がる方
 歯 磨 歯のある方で一部介助が必要な方
 ガーゼ ガーゼにて洗浄

(5) 入浴 清潔保持とともに全身の状態観察を行い、心理的に満たされた入浴を楽しんでいただけるよう実施している。

項 目		男	女	計
自 立		0	1	1
介 助	一部介助	2	14	16
	全介助	9	32	41
	清拭	0	1	1
	機械浴（ストレッチャー）	4	12	16
計		15	60	75

一部介助 洗う意欲はあるが不十分な方
 全介助 疾患により不十分な方
 （一部介助・全介助ともリフト浴利用者を含む）

清潔保持と心身のリラックスのため、月～土曜日の入浴日を設定して、利用者1名に対し週2回の入浴を実施している。入浴チェック表に基づき状況を把握し、ADLに合わせた入浴を実施し、個々の好みを尊重し、時間設定した対応をしてくている。

- (6) いわゆる問題行動 安全確認のもとにできる限り規制せず、自由を尊重し変化の観察を行っている。

項 目	男	女	計
徘徊	0	4	4
異食	1	4	5
暴力	0	6	6
暴言・大声	1	6	7
帰宅願望	0	6	6
不潔行為	1	5	6
訴え	2	8	10
収集	1	3	4
自傷行為	1	0	1
拒絶	0	3	3
夜間せん妄	0	2	2
計	7	47	54

(上記表では重複行動含む)

当ホームにおいては、「障害は個性」と捉え、日常生活介護にあたる際は「個性」と受けとめできる限り自由を尊重し、個人の流れに合わせた対応を行っている。しかし、声なき声をどう察知するかを今後の課題として行きたい。

- (7) 食事 暖かい雰囲気ですくすく食べられるよう配慮し提供している。

項 目	男	女	計
自立	4	30	34
一部介助	6	19	25
全介助	4	7	11
経管栄養等	1	4	5
計	15	60	75

一部介助 スプーンや手づかみで口に運ぶが殆どこぼしてしまう方。

声かけして、口元にスプーンを持っていき、口をあけてもらう方。

全介助 食べる動作を忘れるなど、動作ができない方。

食事は健康を維持するための栄養、毎日の活力のエネルギー源です。また何よりも日常生活の楽しみのひとつとなっています。その人に合った食事、その人の好む食事を目標にしてきざみ食や、ミキサー食などの加工をする他、食器などの工夫も行っている。「セレクトの日」で、好みのメニューを選ぶなどして、行事などで変化のある食事を提供しています。又、厚生労働省が定める、管理栄養士の配置、適時適温及び食事時間等の基準を満たして提供している。

なお、「行事食メニュー」「食糧構成基準量と摂取量」は別記を参照。

(8) 移動・誘導 残存機能を活用し、個々に合った介助を行っている。

項 目		男	女	計
自立	歩行	1	4	5
	シルバーカー歩行器	0	2	2
	車椅子	3	7	10
要 介 助	誘導	0	2	2
	誘導（杖）	0	0	0
	車椅子（一部介助）	3	8	11
	車椅子（全介助）	7	33	40
	歩行介助	1	4	5
計		15	60	75

自立歩行 声かけのみで目的地へ行ける

誘 導 声かけし、職員と一緒に目的地まで行ける

車椅子一部介助 移動のみの介助で、声かけで目的地まで行ける

車椅子全介助 移動し、職員と一緒に目的地まで介助

【健康状況】

(1) 定期診察状況 ※診察のみ（診察処方）とで分けてカウントしている。

項目	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	1 0 月
内科	68 (115)	71 (101)	75 (119)	76 (111)	76 (117)	70 (117)	79 (116)
整形外科	15 (12)	13 (12)	6 (5)	12 (10)	10 (10)	12 (10)	10 (10)
精神科	25 (23)	28 (24)	30 (28)	27 (27)	29 (27)	27 (26)	25 (23)
項目	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計	28 年度 総数
内科	92 (118)	84 (98)	66 (106)	67 (110)	66 (109)	877 (1331)	2208
整形外科	10 (10)	12 (10)	14 (12)	14 (12)	16 (12)	144 (125)	269
精神科	29 (26)	29 (28)	30 (28)	30 (28)	29 (28)	388 (316)	704

(2) 健康診断状況とインフルエンザ予防接種・肺炎球菌ワクチン接種

※ 定期健康診断は誕生月に 1 回実施

※ インフルエンザ予防接種は、利用者全員に希望を伺う（入院中接種者除く）。希望者には南台病院下山医師による接種を実施。

● 季節型インフルエンザ接種者 70 名

● 肺炎球菌ワクチン接種者 7 名

(3) 外来受診状況

診療科	内科		外科		整形外科		皮膚科		眼科	
性別	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
件数	47	171	0	0	2	61	15	39	1	18
診療科	耳鼻科		脳神経外科		泌尿器科		精神科		救急	
性別	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
件数	0	2	1	10	17	7	0	0	3	11
診療科	形成外科		形成外科		緩和ケア		その他			
性別	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
件数	0	2	0	0	0	0	0	2		

(4) 受診先医療機関(外部往診を含む)

医療機関名	件数	医療機関名	件数	医療機関名	件数	医療機関名	件数
南台病院	280	一橋病院	31	東大和病院	20	公立昭和病院	3
パール歯科 (往診)	596	立川災害医療センター	3	西東京中央 総合病院	4	新山手病院	1
緑風荘病院	32	緑成会病院	1	久米川病院	2	小川眼科医院	1
戸島整形外科 クリニック	4	ながしま脳神 経・頭痛クリニック		多摩北部医療 センター	1	やまぐち耳鼻咽 喉科	2
あかしあ脳外科	5	浅谷眼科	14	鈴木眼科	3	計 1003 件	

(5) 入院期間

日数	0～7	8～14	15～30	31～90	90～	合計
男	2	3	1	3	0	9
女	2	8	9	19	0	35
計	4	8	10	22	0	42

(6) 入院患者病名

肺炎（19人）、左大腿部骨折（5人）心不全（3人）、右大腿部骨折（2人）、脳梗塞（2人）、急性腎盂腎炎（2人）、胃瘻増設（2人）、脱水、橈骨骨折、急性膀胱炎、蜂窩織炎、痙攣、胸膜炎、心嚢炎、全身衰弱、肝機能低下、炎症治療、検査目的

【行事】

(1) 実施行事

実施月日	行事名	内容	実施場所
4月9日	コーラス	昔懐かしい歌を中心にコーラスを楽しむ。	ホーム内
5月5～7日	菖蒲湯	浴槽に菖蒲を浮かべ日本古来の風習を楽しむ。	ホーム内
5月29日	母の日	一芸さんによる『南京玉簾』を観賞後、カーネーションを贈呈。	ホーム内
5月29日	誕生会	4・5・6月の誕生日者を対象に、ケーキで御祝いする。	ホーム内
6月19日	父の日	お酒や軽食を楽しみながら、職員お手製のメッセージカードを贈呈。	ホーム内
6月26日	運動会	御家族と共に体を動かし勝敗を競い合う。	ホーム内
7月1～7日	七夕	笹に願を込めて短冊を飾る。	ホーム内
7月13～16日	盆供養	祭壇を飾り、迎え火・送り火を焚き供養する。	1階玄関
7月31日	誕生会	7・8・9月誕生日者を対象に、職員お手製プレゼントを渡し、御祝いする。	ホーム内
7月31日	縁日	露店を開き、夏を感じる食べ物を食べながら、夏を楽しむ。	ホーム内
8月18日	ビアガーデン (夏祭り)	夏の暑さを吹き飛ばす行事として屋上に数々の屋台を出店し、御家族と共に楽しむ。	ホーム屋上
9月20日	敬老会	敬老の日をセレモニーや祝い膳などでお祝いする。	ホーム内
10月3日	コーラス	昔懐かしい歌を中心にコーラスを楽しむ。	ホーム内
10月21日	演奏会	ボランティアの方のオカリナ演奏を聴き、音色を楽しむ	ホーム内
11月6	秋を楽しむ	秋が旬の秋刀魚や芋をメインに調理して味わう。	ホーム駐車場
11月20日	誕生会	10・11・12月誕生日者を対象に、写真撮影とバースデイカードの贈呈。	ホーム内
12月19～21日	ゆず湯	冬至にゆず湯に入り、健康を願う。	ホーム内
12月18日	クリスマス 年忘れ会	無事に一年を終え、御家族と共に宴会を楽しむ。	ホーム内

12月26日	餅つき	年末恒例の行事として、餅つきの実演を利用者と共に行う。	ホーム駐車場
1月1日	新年祝賀会	元旦をおせち料理で祝い、羽子板等の正月遊びを楽しむ。利用者・職員が作成した絵馬を飾り祈願する。	ホーム内
1月3日	初釜	茶を嗜みながら新しい年を祝う。	ホーム内
1月8日	獅子舞・日舞	新年に相応しい踊りを観賞する。	ホーム内
2月3日	節分	職員が鬼に扮して豆まきで福を呼ぶ。	ホーム内
2月14日	ホームバー	昔のバーを思わせる雰囲気作りをし、お好みのお酒やおつまみで、ほろ酔い気分を味わう。	ホーム内
3月3日	ひな祭り	雛人形を飾り、記念写真を撮る。ひな祭りにちなんだ料理を食す。	ホーム内
3月26日	韓国舞踊	優雅な踊り鑑賞し楽しむ。	ホーム内

※ 4月に予定していた花見は、インフルエンザ蔓延のため中止となる。

※ 8月の予定していた花火見学は、雨天にて中止となる。

※ 10月に予定していたふれあい給食は、雪のため中止となる。

(2) 定例行事

誕生会	3ヶ月ごとに誕生会を実施している。
利用者懇談会	毎月利用者の意見や要望を伺うと共に連絡の場として実施している。
ホーム喫茶	ボランティアにより実施し家族や地域の方と親睦を深めている。利用者に喜ばれ、多くの地域の方が利用している。
クラブ活動	書道・華道・料理を実施し、ボランティアによるアロマハンドトリートメント・リフレクソロジー・ハーモニカ・朗読の会・お茶の会・各種楽器演奏を実施している。多くのボランティアのお力添えで行うことができた。
理容・美容	毎月理容1回、美容2回地域の理容師により実施している。
嗜好品購入	生活協同組合「コープみらい」のカタログから、お菓子などの嗜好品を利用者が選び、配達を受けている。

【日用品支給状況】

日常生活に必要な日用品を支給しました。前年度のように定期的に支給するのではなく、必要に応じて、支給を行っている。

日用品支給品目：ティッシュ・歯ブラシ・ウェットティッシュ・歯磨き粉・ポリデント・シャンプー・ボディソープ・洗顔ウォーム 他 各種A・B・Cセット

3. 研修生・ボランティアの受け入れと地域福祉

(1) 研修生の受け入れ

学校名	日数	延べ人数	研修（実習）目的
武蔵野美術大学	7	140	教員実習に伴う介護体験
白梅学園大学	32	44	介護実習
東京医療保健大学	3	9	看護実習
日商簿記三鷹福祉専門学校	14	28	介護福祉士取得実習
日体桜華高等学校	3	6	介護職員初任者研修実習
小平市立第五中学校	4	16	体験学習
東大和市立第三中学校	1	5	体験学習
小平市立第二中学校	4	8	体験学習
希望園	1	9	体験学習

(2) ボランティアの受け入れ状況

グループ名	内容
寿々の会	衣類・タオルたたみ・話し相手・行事など
グループ宙	衣類・タオルたたみ・散歩・行事など
すずめの会	紙芝居・指人形・読み聴かせなど
あじさいの会	話し相手（第2火）
愛子会	キーボードを演奏し、テンポの良い振付で、懐メロや唱歌を歌って下さる。（年3～4回実施）
個人	ホーム喫茶・クラブ活動・話し相手・おやつ食事介助・そうじ 尺八演奏・歌・ハーモニカ・理容・美容・買い物・お茶・絵手紙・書道・華道・車椅子修理等

施設の状況を説明し理解を求め、日常の業務を直接的、間接的に手伝って頂き大きな力になっている。積極的にボランティアを受け入れることで利用者の生活が拡大している。

(3) 地域福祉

学校名	内容
たかの台幼稚園	園児達が来園し歌や手遊びを披露し交流をする。
二葉むさしヶ丘学園	施設行事の敬老会を通して園児の演技やプレゼントの交換等を行い交流する。

福祉サービスを必要とする人たちが地域社会を構成する一員として日常生活を営み、社会、経済、文化に限らずあらゆる分野の活動に参加する機会を得ることができるよう努めている。

4. 各係

(1) 排泄係

研修を通し、パット類の仕組みや正しい使用方法などについて理解を深める取組を行った。様々な視点から情報を集め、本人の希望に添うよう考察・評価し、よりその人の負担の少ない介助方法を考え実施した。また統計をもとに失禁等不快を与えないよう考慮し、排泄時間に変更を行った。今後は取組のプロセスから職員に積極的に働きかけ、ケアを統一させオムツの無駄を最小限に出来るよう技術向上を図る。

(2) 入浴係

身体状況にあった入浴方法を都度検討し、安全に負担のない入浴を実施した。次年度も本人の希望に添えるよう入浴方法を検討・提供すると共に、スキンケアについても改善できる様に取り組んでいきたい。

(3) 食事係

身体機能の低下により、食事摂取が困難になってきている方に摂取方法や食事形態の変更、嗜好品の提案等行い、食べる楽しさと意欲の持続ができるように努めた。一人ひとりの介助方法を全職員に把握させること、食事介助の技術向上に力を入れ、今後も取り組んでいきたい。

(4) ケアプラン・機能訓練係

施設という限られた生活空間の中で、その人らしい生活が送れるよう、安全安心でできる環境を考慮した介護計画の検討を行った。また定期的に勉強会を開催し、職員に対して統一した指導ができるよう、介護支援専門員のスキルアップも目指した。

個別機能訓練加算においては配置基準の兼ね合いから廃止したが、内容を精査し生活の中で行える機能訓練を介護計画の中に反映出来るよう工夫した。今後は積極的に素案から職員にアドバイスをを行い、プラン作成時間の削減に努めたい。

(5) 安全環境係

毎月事故対策会議を行い、事故に対する職員の意識向上と対策の周知徹底を行った。またリスクカンファレンス等で事故の振り返りや今後の対策を全員で考える機会を多く持った。今後は事故対策ルールを明確にし、研修を通して事故予防の芽を養えるようスキルアップに努める。また利用者のADL及びQOLの低下に繋がるような事故を発生ささないよう、事故件数減少を目指していく。

(6) ボランティア係

係としては地域交流会等に積極的に参加し、今年度は個人10名団体3組、総勢25名程の新規ボランティアの方と一緒に活動することができた。今後も利用者の余暇活動の充実を目標に、今いるボランティアの方々の要望に答えながら、ボランティア感謝会を企画し、長く活動して頂けるよう支援していきたい。

(7) 実習生係

介護福祉士を目指す学生が減少傾向にあり受入学校及び実習生数も減少したが、その分、実習生一人ひとりに時間をかけて教える事ができた。また武蔵野美大の学生についても、新たな取組として認知症を知ってもらえるよう実習プログラムに組み込み、理解を深めてもらった。次年度も引き続き介護技術の他、学生自身が介護の楽しさや

やりがいを見出していけるような指導を行い、介護の魅力と伝えていきたい。

(8) 整理係

利用者の安全のためフロアや施設等の修理・補修を行い、快適で安全な環境づくりに努めた。職員一人ひとりが日常的に整理することを意識することは出来ず、職場環境が乱雑になることが多々見慣れた。次年度はきれいな職場を目指し“整理整頓”を意識させ、業務効率の向上を図っていきたい。

(9) サービスマナー係

シナリオロールプレイ研修を月1回ペース実施し、利用者に適切なサービスが行き届くよう職員育成に力を入れてきた。援助者の接し方や態度（聴き方・話し方）を中心に実際の介護場面に即して再現する事で、利用者や家族の心情、施設職員としての気付きを引き出すことができた。次年度も職員として相応しいコミュニケーション技術を身に付けていけるよう職員教育に努めたい。

5. 栄養、給食関係

給与栄養基準量と摂取量

給与栄養基準量	給与栄養量	
	基準量	摂取量
エネルギー (kcal)	1500	1510
たんぱく質 (g)	58.0	57.6
脂質 (g)	34.2	34.1
カルシウム (mg)	660	622
鉄 (mg)	6.2	8.0
ビタミン A (μg)	679	676
ビタミン B1 (mg)	0.96	0.76
ビタミン B2 (mg)	1.14	0.91
ナイアシン (mg)	10.6	12.3
ビタミン C (mg)	100	96
食塩相当量 (g)	7.2 以下	7.2
食物繊維 (g)	17.4	13.6
炭水化物エネルギー比 (%)	64	64.4
脂肪エネルギー比 (%)	20.5	20.3
蛋白質エネルギー比 (%)	15.5	15.3

給与栄養基準量		基準栄養量に対する 給与摂取量の比率
エネルギー	1500 k c a l	101%
タンパク質	58 g	99%
脂質	35 g	100%

(平成 29 年 3 月分)

行事食メニュー (平成 28 年度)

月	日	行事	献立
4	1	桜祭り	桜ご飯、清汁、揚げ鶏のみぞれかけ、新じゃがの土佐煮、小松菜のごま和え
	5	握り寿司の日	握り寿司、干瓢巻き、清汁、かぶの海老あん、小松菜の磯和え
	6	赤飯の日	赤飯、味噌汁、白身魚の揚げだし、かぼちの甘辛煮、浅漬け
	12	郷土料理の日	～沖縄県～ ジュシー、味噌汁、フーチャンプルー、かぼちの含め煮、黒糖ムース
	16	お楽しみ献立	ご飯、清汁、刺身（まぐろ、甘海老、サーモン）、かぶのそぼろあん、菜の花サラダ
5	5	端午の節句	散らし寿司、清汁、炊き合せ、抹茶プリン <間食> 柏もち
	8	母の日	鯛めし、清汁、茶巾盛り合わせ、しめじと青菜の和え物 <間食> いちごケーキ
	12	お楽しみ献立	ターメリックライスの魚介モルネソースかけ、コンソメスープ、カリフラワーのアボガドソース、ババロア
	16	赤飯の日	赤飯、清汁、鮭の照り焼き、がんもの含め煮、酢の物
6	8	赤飯の日	赤飯、味噌汁、鱈の香味焼き、厚揚げと野菜のくず煮、浅漬け
	12	父の日	散らし寿司、清汁、なめこ豆腐、あじさいゼリー (間) どら焼き
	16	お楽しみ献立	ご飯、味噌汁、手作りコロッケ、炊き合わせ、みかんのフルーチェ
	22	郷土料理	～福岡県～ かしわ飯、清汁、かれの明太マヨ焼き、がめ煮、漬物
	26	運動会	<お弁当> 太巻き、いなり寿司、から揚げ、えびフライ、マカロニグラタン、シューマイ、筑前煮、抹茶ようかん
7	1	郷土料理の日	～栃木県～ 五目飯、干瓢の玉子とじ(汁物)、焼き餃子、オクラの湯葉和え
	7	七夕	三色そうめん、天ぷら、豆腐の蟹あんかけ、星ゼリー
	16	お楽しみ献立	祭り寿司、冷しそうめん汁、冬瓜の蟹あんかけ、柚子葛まんじゅう

	21	赤飯の日	赤飯、豚汁、ブリの照り焼き、里芋の煮付け、 海老と三つ葉の みぞれ和え
	30	土用丑の日	うな井、清汁、夏野菜の炊き合わせ、小海老の酢の物
8	12	郷土料理の日	～山形県～ ご飯、芋煮汁、枝豆入りハンバーグの甘辛煮、冷や汁、だし
	15	終戦の日	さつま芋ご飯、すいとん、魚の煮付け、角天の炊き合わせ、 しその実和え
	16	お楽しみ献立	枝豆と茗荷の生姜ご飯、清汁、フライ盛り合わせ、 冬瓜の冷やし葛あん、抹茶水まんじゅう
	18	ビアガーデン	やきそば、お好み焼、焼き鳥、もつ煮、ソフトクリーム、 ビール、ジュース、流しそうめん
	26	赤飯の日	赤飯、味噌汁、銀だらの西京焼き、炊き合わせ、胡瓜の物
9	18	敬老の日	<松花堂弁当>赤飯、お吸い物（かまぼこ、三つ葉）前菜（青菜 のきのこ和え、菊花と長芋の酢の物、蟹の重ね蒸し、厚焼き玉 子、甘味（寿ねりきり）炊き合わせ（六角里芋、亀さつま芋、鶴 人参、南瓜、魚河岸揚げ、絹さや）、焼き物（鶏肉の野菜巻き） 天ぷら抹茶塩添え（舞茸、ピーマン、海老）
	24	お楽しみ献立	五目寿司、きのこ汁、茄子の肉みそがけ、きなこプリン
	26	郷土料理の日	～群馬県～ 釜めし、しこね汁、みそ田楽、白和え
10	7	赤飯の日	赤飯、けんちん汁、鮭の幽庵焼き、炊き合わせ、オレンジ
	12	郷土料理の日	～大分県～ ひじきご飯、味噌汁、とり天、筑前煮、酒まんじゅう
	24	お楽しみ献立	ご飯、コンソメスープ、チキンカツ、切り干し大根煮、浅漬け
11	1	赤飯の日	赤飯、味噌汁、鰯の粕漬け焼、かぶと鶏肉の煮込み、 かに風味和え
	4	郷土料理の日	～京都府～ 大根菜飯、味噌汁、鮭の湯葉あんかけ、炊いたん、千枚漬け
	17	握り寿司の日	握り寿司、干瓢巻き、清汁、豆腐の海老あん、ピーナッツ和え
	20	お楽しみ献立	ねぎとろ井、清汁、厚揚げの五目煮、春菊と菊花のお浸し
12	10	郷土料理の日	～東京都～ 深川井、清汁、揚げ出豆腐、小松菜の磯和え
	15	赤飯の日	赤飯、清汁、鰯の西京焼き、じゃが芋煮、風味和え
	20	年忘れ会	クリスマス弁当：太巻き、サラダ巻、サーモンの握り、チキンの たらこソース、海老とブロッコリーのフリッター、さつま芋のツ リーサラダ、浅漬け、一口ロールケーキ、コーンかき玉スープ
	24	クリスマス	洋風ピラフ、コンソメスープ、シーフードのクリーム煮、 鴨と卵のサラダ、苺ババロア

	31	年越しそば	ご飯、うなぎの蒲焼き、炊き合わせ、果物（りんご）、一口年越しそば、
1	1	正月	赤飯、お吸い物、おせち料理 一の重：伊達巻、紅白蒲鉾、黒豆、数の子、栗きんとん、松竹梅羊羹、昆布巻 二の重：鯖の照り焼き、鶏の八幡巻き、紅白なます、海老の艶煮、サヨリの大根巻き 三の重：煮しめ（松大根、ねじり梅人参、紅白蕪のさつま揚げ、椎茸、穂先たけのこ、こんにゃく、六角里芋、ふき、絹さや
	2		お雑煮、鯖の西京焼、一口がんもの炊き合わせ、オクラの梅肉和え
	3		ねぎとろ丼、野菜汁、揚げだし豆腐、千枚漬け
	7	七草粥	七草粥、厚焼き玉子、きんぴら蓮根
	9	郷土料理の日	～北海道～ ご飯、かしわぬき、鮭のチャンチャン焼き、かぼちゃしるこ、昆布和え
	13	赤飯	赤飯、清汁、白身魚のかぶら蒸し、茄子の肉みそがけ、菜の花のお浸し
	17	お楽しみ献立	オムライス、クリームスープ、ポテトサラダ、果物
2	3 (昼)	節分	恵方巻き、野菜汁、海老茶巾の炊き合せ、果物（いちご） ＜間食＞玉子ボーロ
	3 (夕)	節分	福ご飯、味噌汁、節分焼き、さつま芋のオレンジ煮、胡瓜とわかめの酢の物
	4	赤飯の日	赤飯、味噌汁、鯖の立田揚げ、つみれと野菜の含め煮、ほうれん草の海苔和え
	17	郷土料理の日	～静岡～ 桜海老のかき揚げ丼、味噌汁、あんかけ豆腐、黒糖まんじゅう
	26	握り寿司の日	握り寿司、かんぴょう巻き、清汁、かに豆腐、小松菜のピーナッツ和え
3	3	桃の節句	江戸散らし、清汁、炊き合せ、菜の花の辛子和え（間食） さくら餅
	14	赤飯の日	赤飯、きのこ汁、赤魚の煮付け、ひき肉と春雨の炒め物、胡麻和え
	24	お楽しみ献立	チャーハン、スープ風水餃子、棒棒鶏風サラダ、杏仁豆腐

短期入所生活介護 事業報告

運営概況

今年度、当事業所においては「稼働率98%以上確保」の事業目標を達成することができた。年度全体でみると、特別養護老人ホームの入所編成やインフルエンザ蔓延による利用控え等により稼働率が低下する月もあったが、相談係を中心としたショートステイ係のリピーターを確保するための取組が、結果的にこの稼働率を向上させた大きな要因であると考えられる。特にレンタル衣類セットの拡充により、ご家族の入所準備の簡略化と突発的な事情による利用を受け入れる等努力してきた結果、外部の居宅支援事業所からの相談件数が増加したことは、一定の期待が得られてきたと実感している。

しかしサービス面では課題もある。利用中における利用者アセスメントや在宅生活に向けた支援体制については大きな課題である。また行事やレクリエーションといった余暇活動についても次年度ショートステイ係を中心に再構築し、多くの利用者ニーズに応えていけるよう資質向上に努めていきたい。

以上のことを、今年度の報告としたい。

1、28年度月別利用実績

月 項目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
件数 (件)	37	39	34	36	41	38	35	34	34	37	33	34	432
	26	31	30	34	33	28	31	37	37	33	33	38	391
延べ人数 (件)	232	257	246	260	317	278	229	216	223	249	228	257	2,992
	183	177	179	197	192	163	188	236	231	252	246	249	2,493
1日当たり (人)	7.7	8.3	8.2	8.4	10.2	9.3	7.4	7.2	7.2	8.0	8.1	8.3	8.2
	6.1	5.7	6.0	6.4	6.2	5.4	6.1	7.9	7.5	8.1	8.5	8.0	6.8
月平均稼働 率 (%)	77.3	82.9	82.0	83.8	102.2	92.6	73.8	72.0	71.9	80.3	81.4	82.9	81.9
	76.3	71.4	74.6	79.4	77.4	67.9	75.8	98.3	93.1	101.6	106.0	100.4	85.1

上段＝28年度 下段＝27年度

2、要介護度・年齢別利用者数

年齢	性	支援1	支援2	介護1	介護2	介護3	介護4	介護5	計	構成比%
～64	男									0.0
	女									
	計									
65～74	男			1		1		1	3	14.7
	女				1	1			2	
	計			1	1	2		1	5	
75～84	男			1	1		1		3	29.4
	女				3	2	1	1	7	
	計			1	4	2	2	1	10	
85～94	男					1	1		2	44.1
	女		1		5	5	1	1	13	
	計		1		5	6	2	1	15	
95～	男									11.8
	女			2	1		1		4	
	計			2	1		1		4	
計	男			2	1	2	2	1	8	100
	女		1	2	10	8	3	2	26	
	計		1	4	11	10	5	3	34	

小川ホーム デイサービスセンター 事業報告

運営概況

28年度も、法人の基本理念にそって利用者の心を大切にし、健全で安らかな生活を支えようという考えに基づき行動することができていたと思う。

28年度は、前年度から続いていた職員不足に加えて、更に5月に1名介護職員が退職した。必要に応じて採用活動も行ってきたが、なかなか応募の問い合わせにも至らない状況が続いた。その中でも、職員が協力し、より良いサービスを提供できるように行動することができた。ご利用者の認知症の進行と共に、対応が厳しい状況が続き、中重度ケア体制加算については、年平均で30.60%であったが、看護師配置の面で加算要件に届かないこともあり、算定するまでには至らなかった。

自立支援に基づいた介護については、理解しているつもりでも、実際の場面で行うことが、まだまだ途上な段階であった。新規のご利用者も独居や認知症の方が増えてきている。そのニーズに対して職員のスキルアップの意識が不足していたことも否めない。より質を高めるために、今後は、具体的な研修計画を策定し、実施することが課題である。

稼働率については、目標1日27名のところ、26.7名であった。12月までは、全般的に稼働も良好でしたが、1月中旬から、風邪症状の見られるご利用者が増え、3月には、ご利用者2名インフルエンザ発症。その後職員も4名罹患。稼働も下がった結果となってしまった。4月よりご利用者、職員の体調も落ち着かれました。

ご利用者の趣味活動については、その人のできることを一緒に職員が考えながら対応することができたが、認知症の方が増え個別で対応する必要がある方が増えてきた。

職員研修は、事業所内研修の機会不足、法人研修への参加が少ない状況が続いていたため、職員が知りたいことや、介護に役立つ研修の機会を作っていくことが課題である。

通所介護計画書などの資料作成については、ワイズマンの介護ソフトを活用することで整備しやすくなった。

1、月別実績

	内容／月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
参加数	予防	111	122	127	144	147	139	136	130	115	111	119	123	1,524
	介護	571	570	593	572	579	570	573	587	557	519	494	537	6,722
	計	682	692	720	716	726	709	709	717	672	630	613	660	8,246
	(27年度計)	646	629	654	702	681	682	730	717	677	658	707	726	8,209
新規	予防	4	4	6	9	0	3	0	2	2	1	1	0	32
	介護	5	0	2	1	3	2	1	1	1	1	2	1	16
	計	9	4	8	10	3	5	1	3	3	2	3	1	48
廃止	予防	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	2
	介護	1	2	1	2	0	1	1	0	2	3	2	4	19
	計	1	3	1	2	0	1	1	0	2	3	2	5	21

予 防	運動機能 向上	8	9	9	8	9	9	8	0	0	0	0	0	60
	口腔機能 向上	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	栄養改善	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	入浴 (一般)	18	21	17	17	14	18	16	17	16	12	14	11	191
介 護	機能訓練	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	口腔機能 向上	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	栄養改善	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	入浴 (一般)	186	178	200	185	173	185	204	189	199	185	185	208	2,277
	入浴 (機械)	91	91	106	112	124	103	88	111	95	91	92	85	1,189

2、要介護度・年齢別利用者数

年齢	性	支援 1	支援 2	介護 1	介護 2	介護 3	介護 4	介護 5	計	構成比%
～ 6 4	男									0.0
	女									
	計									
6 5 ～ 7 4	男									4.8
	女		1	1	1	1			4	
	計		1	1	1	1			4	
7 5 ～ 8 4	男			2	1	1			4	37.4
	女	2	6	6	6	3	2	2	27	
	計	2	6	8	7	4	2	2	31	
8 5 ～ 8 9	男	1			1	1		1	4	27.7
	女	2	4	3	6		1	3	19	
	計	3	4	3	7	1	1	4	23	
9 0 ～	男	1							1	30.1
	女	2	5	5	9	2	1		24	
	計	3	5	5	9	2	1		25	
計	男	2		2	2	2		1	9	100
	女	6	16	15	22	6	4	5	74	
	計	8	16	17	24	8	4	6	83	

(平成 2 9 年 3 月分)

3、移動方法別利用者数

		男	女	計
歩行	自力	7	57	64
	介助	3	8	11
車椅子	自力	0	3	3
	介助	1	7	8
計		11	75	86

4、地域別利用者数

地域名	男	女	計
小川町 1	0	4	4
小川町 2	0	0	0
小川西町	7	34	41
小川東町	2	16	18
栄町	1	0	1
上水本町	0	1	1
学園西町	0	5	5
学園東町	0	0	0
仲町	0	1	1
津田町	1	8	9
たかの台	0	1	1
東村山	0	4	4
東大和	0	1	1
計	11	75	86

行事

行事名	縁日横丁(暑気払い)
日程	8月1～6日(すいか割り)
場所	活動室
参加人数	158名(延べ)
行事名	縁日横丁(暑気払い)
日程	8月29日～9月3日(縁日横丁/かき氷)
場所	活動室
参加人数	156名(延べ)
行事名	夏祭り(ビアガーデン)
日程	8月18日
場所	デイサービス活動室
参加人数	利用者21名 家族10名
行事名	明治学院中学校・ハンドベルクワイア演奏会
日程	12月15日
場所	活動室
参加人数	40名
行事名	忘年会
日程	12月21～27日
場所	小川ホーム活動室
参加人数	111名(延べ) ※ボランティア1名
行事名	初詣
日程	1月9～14日
場所	小平神明宮・八坂神社
参加人数	80名

小川ホーム ホームヘルプサービス 事業報告

運営概況

平成28年3月より、小平市でも介護予防・日常生活支援総合事業がスタートした。スタートに先立ち、小平市の全体説明会が2回行われ、現行相当サービスについては、みなし指定でそのまま介護予防訪問介護と変わらない報酬と援助内容により、特に何も変わらないということが実感でき、大きな混乱もなく進んでいるように思う。

この1年間で新規依頼が47件、月平均127人の利用者宅に21人のヘルパーを派遣、援助を行ってきた。非常勤ヘルパーの病気による入院や怪我、退職の影響があり、年間を通して慢性的な人材不足という課題が生じてしまい、今年度の事業目標である月間1600時間以上の稼働は達成できなかった。

市内の他事業所ではホームヘルパーの高齢化が進み、人材確保が困難となり閉鎖された市内事業所もある。当事業所においても求人募集をかけても応募がないという現状があり、これを打破するためにはどうしたらよいのかが、今後の大きな課題となっている。

平成29年度の介護報酬改定においては、介護人材の処遇改善について、「キャリアアップの仕組みを構築し、月額平均1万円相当の改善」を実施目標に、介護職員の賃金改善に充てることを目的に創設され、28年度の末に対策や準備を行っている。これは現行の介護職員処遇改善加算の区分が1つ増え、5つの区分になる。新設する区分は、これまでの算定要件に加え、新たに「キャリアパス要件」が要求されているが、幸いにもこれらの要件をすべて満たす準備が整った。今後の課題としては、人材の確保、育成、専門性を生かし、重度の要介護者や今後増えることが予想される認知症の方、また自宅で最期を迎えたいと希望される利用者への看取りなど、積極的に受け入れることで地域のニーズを汲み取り、必要な取り組みを広く行っていきたいと考えている。

今回の改定では、利用者の利用料金負担増にも繋がるため、より質の高いサービス提供のため研修の充実化を図っていく。

1、月別実績

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
件数	124	121	124	121	121	125	128
延べ人数	1,336	1,369	1,382	1,412	1,414	1,361	1,288
1日当り	44.5	44.2	46.1	45.5	45.6	45.4	41.5
	11月	12月	1月	2月	3月	合計	※27年度
件数	125	126	126	125	126	1,492	1,538
延べ人数	1,330	1,374	1,400	1,358	1,474	16,498	16,729
1日当り	44.3	44.3	45.2	48.5	47.5	45.2	45.7

2、要介護度・年齢別利用者数

年齢	性	事業 対象	支援 1	支援 2	介護 1	介護 2	介護 3	介護 4	介護 5	計	構成 比%
～64	男										0.8
	女					1				1	
	計					1				1	
65～ 74	男	1			2	2	1	1	1	8	15.9
	女		1	5	4	1			1	12	
	計	1	1	5	6	3	1	1	2	20	
75～ 84	男	1	1	4	4	2		1		13	39.7
	女	1	8	12	4	4	1	6	1	37	
	計	2	9	16	8	6	1	7	1	50	
85～ 89	男			2	1	4		1	1	9	26.2
	女		4	10	4	4			2	24	
	計		4	12	5	8		1	3	33	
90～	男			2						2	17.4
	女		1	3	7	2	4	2	1	20	
	計		1	5	7	2	4	2	1	22	
計	男	2	1	8	7	8	1	3	2	32	100
	女	1	14	30	19	12	5	8	5	94	
	計	3	15	38	26	20	6	11	7	126	

(平成29年3月分)

3、地域別利用者数

地域	男	女	計
小平市	31	94	125
他市	1	0	1
計	32	94	126

(平成29年3月分)

4、サービス内容別実績

サービス内容		件数	延人数	サービス 時間 (時間)
訪問型サービスⅠ	週 1 回 1 回 1 時間程度	33	141	135.8
訪問型サービスⅡ	週 2 回 1 回 1 時間程度	17	145	143.4
訪問型サービスⅢ	週 3 回以上 1 回 1 時間程度	6	81	82.3
身体介護 1	3 0 分未満	14	167	81.3
身体介護 2	3 0 分以上 1 時間未満	12	38	37.6
身体介護 3	1 時間以上 1 時間 3 0 分未満	4	28	41.1
身体介護 4	1 時間 3 0 分以上 2 時間未満	0	0	0.0
身体 1 生活 1	3 0 分以上 1 時間未満	13	230	231.5
身体 1 生活 2	1 時間以上 1 時間 3 0 分未満	4	20	30.0
身体 1 生活 3	1 時間 3 0 分以上 2 時間未満	0	0	0.0
身体 2 生活 1	1 時間以上 1 時間 3 0 分未満	4	11	16.5
身体 2 生活 2	1 時間 3 0 分以上 2 時間未満	0	0	0.0
身体 2 生活 3	2 時間以上 2 時間 3 0 分未満	0	0	0.0
身体 3 生活 1	1 時間 3 0 分以上 2 時間未満	2	10	20.0
身体 3 生活 2	2 時間以上 2 時間 3 0 分未満	0	0	0.0
身体 3 生活 3	2 時間 3 0 分以上 3 時間未満	0	0	0.0
身体 1 夜	3 0 分未満	2	18	8.8
身体 2 夜	3 0 分以上 1 時間未満	0	0	0.0
身体 1 生活 1 夜	3 0 分以上 1 時間未満	0	0	0.0
生活援助 2	3 0 分以上 1 時間未満	16	122	76.1
生活援助 3	1 時間以上 1 時間 3 0 分未満	48	458	461.2
生活援助 2 夜	3 0 分以上 1 時間未満	2	4	2.0
生活援助 3 夜	1 時間以上 1 時間 3 0 分未満	0	0	0.0
合 計		177	1,473	1,367.6

(平成 2 9 年 3 月分)

小川ホーム 介護計画センター 事業報告

運営概況

平成28年度は、非常勤のケアマネジャーを1名増員し合計8名となり、利用者数を徐々に増やすことができ、1か月のケアプラン件数は年度末には約240件となった。

利用者の高齢化や重度化は傾向に変わりはないが、サービス付高齢者住宅や比較的低価格な有料老人ホームが増え、入所施設が利用しやすくなり、利用者との契約と解約の動きが多かった。医療との連携のため、担当利用者の入院時には介護情報提供書の発送や、病院から要請された介護連携のための面会が必要となった。また、退院時の病院カンファレンスへの参加が多々あり、利用者が不安なく入退院ができるように、他機関との連携を図ってきた。

本年度は介護保険制度の改正はなく、制度上の変化の対応に追われることは比較的少なかった。ケアマネジメントの質の向上が課題となり、小平市でも引き続きケアプラン指導研修が行われ、東京都が作成したガイドラインに基づき、『リ・アセスメント支援シート』の講習や勉強会に積極的に参加した。

今年度から開始された第1回目の主任ケアマネジャーの更新研修に1名が受講し研修を修了し、主任ケアマネジャーの資格を継続し修得している。合わせて、ケアマネジャー更新研修にも1名が受講し資格を継続し修得した。

その他外部研修としては、小平市内のケアマネジャーの横のつながりや専門職としての技能を研鑽し合うことを目的とする『小平ケアマネ連絡会』の研修に、年間を通して3名が参加した。学んだ内容については、毎週1回行っている計画センターの全体ミーティングで事業所内研修として展開し、ケアマネジメントの質の向上に努めた。そのほかに、医師や看護師、薬剤師や歯科医師、ヘルパー、PT、OTなど多職種が参加する在宅医療介護連携推進協議会主催の、在宅ケアコラボ研修などにも開催時には定期的に参加し、在宅高齢者支援における知識と連携を深め、ケアマネジャーとしての専門性を高める努力をした。

1. ケアプラン作成件数

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
件数	226	226	229	234	229	237	232
内受託	2	2	2	2	2	2	1
月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	※27年度
件数	229	232	237	240	238	2,789	2,666
内受託	1	1	1	1	1	18	20

2. 要介護度別分類

年齢	性	支援 1	支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	合計
～59	男				1				1
	女						1		1
	計				1		1		2
60 ～64	男								
	女				2				2
	計				2				2
65 ～69	男			1	3		1		5
	女			3	2		2		7
	計			4	5		3		12
70 ～74	男			2	2	2		1	7
	女			7	3	2		2	14
	計			9	5	4		3	21
75 ～79	男			4	6	3	3		16
	女			6	3	3	6	2	20
	計			10	9	6	9	2	36
80 ～84	男			9	6	2		2	19
	女			13	8	5	4	1	31
	計			22	14	7	4	3	50
85 ～89	男			5	7	3	4	1	20
	女			12	14	4	3	2	35
	計			17	21	7	7	3	55
90～	男			1	1	1	1	2	6
	女		1	17	17	12	5	2	54
	計		1	18	18	13	6	4	60
合計	男			22	26	11	9	6	74
	女		1	58	49	26	21	9	164
	計		1	80	75	37	30	15	238

(平成 2 9 年 3 月分)

3. 地域別利用者数

地域	男	女	計
小平市	73	163	236
東村山市	1	1	2
計	74	164	238

(平成 2 9 年 3 月分)

小平市 地域包括支援センター 小川ホーム 事業報告

運営概況

平成28年3月から介護予防日常生活支援・総合事業（以下総合事業とする）が小平市で始まった。地域包括ケアシステムの基盤ともなるので、包括としても、総合事業が始まるまでには、行政と、何度も話し合いを重ねてきた。

介護保険サービスのうち、デイやヘルプを使う総合事業の移行は利用者の有効期間満了した者から、順に移行する形をとった事とサービスとしては「みなし（事業所）」として利用ができるので、利用者には大きな混乱はなかった。ただし、契約書の取り交わしや市に提出する書類を改めて行う必要も出てきた為、事務作業には多くの時間を費やす形となった。事業対象者の認定にあたる利用者は、包括が行う基本チェックリストで行うが、結果的には、事業対象者としての認定を出したのは、3月末現在の実人数で32件であり、比較的少数にとどまっている。平成30年3月までは、みなし事業所としていけるため、現実的に緩和型へ移行する利用者は限定的で、現在まではほとんどいない。緩和基準型の訪問型サービスと通所型サービスは事業所自体がまだ少ない事や、住民主体のサービスがない事、ライフサポーターの養成はしつつあるが、担い手不足の問題があり、これらが今後の課題になっている。ケアプランにおいては、予防給付から総合事業のプランへ徐々に移行してきている。

一方、総合相談の件数も月40～45件で推移している。相談内容は得に癌末期、認知症、精神疾患、多問題家族、ゴミ屋敷、権利擁護等の相談が多く、サービスにつながるまでに時間を要しているケースも多く、行政や他機関との連携を数多く行ってきた。

一般介護予防事業の中での、介護予防講座においては、包括支援センター独自で行っている講座では、短期集中リハビリ通所型サービスの卒業者をはじめ、地域の高齢者に対してストレッチや脳トレ、ゴムを使つての身体機能の向上を目指して行っている。地域の介護予防講座として、地域住民の健康作りの場として軌道に乗ってきた。

包括的支援事業の中では、地域ケア会議の推進事業があり、個別や地域型地域ケア会議を通して、「見守り・認知症」についての課題が多くあがった為、基幹型地域ケア会議では、その課題についての話し合いを行った。その中において、一番のメインは生活支援体制整備事業への取り組みである。包括支援センターの主要な業務は、地域作りにある事から、第一層の生活支援コーディネーターと協力し会議を定期的に行った。そこで、日常生活圏域の課題や社会資源を洗い出し、地域作りをしていく土台を作った。

見守りボランティア事業においても関連するところであるが、交流会を毎月実施し、街歩きを

してマップ作りに役立てるなどし、地域の民生委員との交流や勉強会では、特別講師を招いて「自分たちが地域で出来る事」についてボランティア活動について学んだ。そこで、地域活動としての積み重ねをして、仲間の輪も深まってきた。

本部で行っている認知症カフェ（おれんじカフェ小川）は毎月開催し、認知症の方やその家族の交流に役立てて頂いている。サロンは毎週開催（認知症カフェ開催日以外）して、地域住民の憩いの場として定着させ、圏域内の地域作りを進めてきた一年となった。

その他、任意事業もあり、介護給付費適正化事業（ケアマネ支援）、家族介護支援事業（家族介護者教室）、認知症サポーター養成講座も行ってきた。又、行政や地域との会議、医療と介護との多職種連携事業（研修）との会議体にも多くの時間を費やし参加してきた。これらのことにより、ますます一人ひとり職員の責任や負担は大きくなっている。

今年度の人材面においては、職員の資質相違や健康問題等で、1名の欠員を安定的に定着させる事ができなかった。

今後、業務量も多くなるため、地域包括支援センターの機能強化を図るため人的補充や人材育成の面での充実を図れる様にしていきたい。

1、 ケアプラン作成件数

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
件数	412	405	420	416	412	423	427
内委託	68	67	68	66	63	67	69
月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	※27年度
件数	432	437	437	419	415	5,055	4,541
内委託	75	75	76	67	70	831	808

2、 要介護度分類

	～59歳		60～64		65～69		70～74		75～79		80～84		85～89		90～		合計		
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	計
事業							1		4	9	5	6		5		2	10	22	32
支援1	1	1			1	2	4	9	4	17	8	31	6	34	2	19	26	113	139
支援2	2	1	3	2	6	7	5	6	8	17	23	62	16	50	13	23	76	168	244
合計	3	2	3	2	7	9	10	15	16	43	36	99	22	89	15	44	112	303	415

平成29年3月31日現在

3、 相談実績

相談件数 (件)			4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間
	当月相談者数		131	187	127	140	202	153	135	175	165	149	224	175	1963
	当月内訳	新規相談者	34	33	26	20	43	28	39	47	34	45	40	46	435
		継続相談者	97	154	101	120	159	125	96	128	131	104	184	129	1528
相談内訳	自立支援サービス	給食サービス	2	1	0	2	4	4	7	2	4	5	0	1	32
		住宅改修	4	1	0	0	3	0	1	3	5	3	4	5	29
		福祉用具	2	0	0	0	2	0	2	3	4	3	2	2	18
		緊急通報・火災安全システム	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	2	4
		おむつ支給等事業	0	0	2	1	0	1	0	0	3	1	0	0	8
		高齢者見守り事業	19	22	15	10	15	11	14	14	17	10	19	15	181
		その他自立支援サービス等	4	2	0	0	2	2	1	2	1	0	2	1	17
	介護保険	施設サービス	7	13	7	9	7	6	3	3	15	5	6	3	84
		在宅サービス	65	102	54	80	97	87	62	67	99	81	71	89	954
		地域密着サービス	0	1	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	3
		ケアマネ・ケアプランの相談	12	23	9	12	23	22	5	10	9	8	12	11	156
		申請等の相談	39	50	24	25	49	42	30	42	40	46	35	43	465
	介護予防・生活支援	訪問型サービス	5	2	2	4	1	0	0	11	5	1	4	7	42
		通所型サービス	19	3	11	6	5	4	16	20	4	3	13	34	138
	一般介護予防事業	ADL・IADL に関する相談	0	2	1	0	0	0	0	2	0	0	1	3	9
		社会参加に関する相談	2	2	0	6	0	0	1	4	0	3	0	6	24

	認知症に関する相談	症状・生活に関する相談	14	12	9	15	13	9	11	9	8	11	12	10	133
		受診・治療・服薬に関する相談	3	10	11	10	7	2	3	6	5	7	10	6	80
		上記以外の相談	1	0	1	0	0	0	2	0	0	1	1	3	9
	権利擁護	地域福祉権利擁護	0	0	0	0	0	2	0	0	1	0	1	1	5
		成年後見	1	0	0	0	0	1	1	1	3	1	2	3	13
		高齢者虐待	0	2	0	1	1	5	1	0	0	1	4	5	20
		消費者相談	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	2
	その他	苦情	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1
		安否確認・緊急対応	3	4	0	0	10	6	2	3	1	13	5	4	51
		住環境に関する相談	2	3	3	6	10	5	8	6	11	7	5	13	79
		生活困窮者に関する相談	2	0	0	0	1	2	2	2	1	21	0	2	33
		緊急医療情報キットに関する相談	0	0	0	2	1	0	0	0	1	0	1	3	8
		医療関係	7	9	7	4	24	11	4	2	16	11	12	17	124
		他制度の相談	0	0	0	1	3	0	1	0	2	0	0	0	7
		上記以外の相談	0	0	1	1	4	1	2	0	0	2	3	2	16

相談件数（件）			4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間
予防給付	要支援1	予防ケアプラン作成	111	107	99	84	76	69	68	48	40	43	43	33	821
		予防ケアプラン作成委託	18	15	17	11	11	11	11	9	11	11	9	8	142
		ケアプラン作成委託事業者数（3月31日現在の数）	15	15	13	12	15	11	10	11	13	12	11	14	12.6
	要支援2	予防ケアプラン作成	181	163	167	154	147	150	136	121	119	122	120	120	1700
		予防ケアプラン作成委託	45	47	46	44	40	41	36	36	35	32	31	32	465

		ケアプラン作成委託事業者数（3月現在）	32	32	35	36	29	33	23	29	27	27	24	20	28.9
		セルフケアプラン作成件数	0	3	4	2	4	0	1	0	2	5	5	1	27
介護予防日常生活支援事業	事業対象者	ケアプラン A	21	22	22	22	11	14	12	16	19	16	16	15	206
		ケアプラン B	8	8	9	9	17	11	16	16	19	18	18	17	166
		ケアプラン C	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		総合事業ケアプラン作成・委託	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		総合事業作成委託事業者（3月現在）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	要支援 1	ケアプラン A	10	15	26	37	45	58	58	71	80	78	75	80	633
		ケアプラン B	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		ケアプラン C	0	0	0	0	0	0	0	0	0	14	0	0	14
		総合事業ケアプラン作成・委託	1	1	3	5	5	4	8	12	10	14	11	14	88
		総合事業作成委託事業者（3月現在）	1	1	2	5	4	4	8	11	11	13	11	11	6.8
	要支援 2	ケアプラン A	19	24	28	41	48	50	62	79	82	79	80	80	672
		ケアプラン B	0	0	0	0	0	0	0	0	0	18	0	0	18
		ケアプラン C	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		総合事業ケアプラン作成・委託	2	3	4	6	5	5	13	15	15	18	17	18	121
		総合事業作成委託事業者（3月現在）	2	3	4	6	5	3	13	12	20	13	14	15	9.1
ケアマネ業務		事業対象者	28	7	10	16	0	0	24	29	5	3	11	25	158
		要支援 1	204	270	272	257	215	219	211	255	253	248	259	236	2899
		要支援 2	332	409	420	250	311	225	327	370	371	377	328	304	4024
		申請中・退院調整等	11	9	14	5	4	6	12	4	14	23	22	13	137
		サービス担当者会議・ケース会議	24	36	40	47	31	29	43	41	35	46	32	16	420
介護保険申請件数			63	91	63	55	72	66	71	52	70	61	45	63	772
事業対象者 基本チェックリスト実施			0	0	2	14	0	0	2	1	0	0	6	1	26
実態把握に関する対応			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	97	21	118
マネジメント事業 包括的・継続的ケア	ケアプラン作成指導・個別指導・相談		3	0	0	0	0	1	1	2	0	0	1	0	8
	困難事例への指導助言		5	2	0	0	0	20	0	0	1	1	0	0	29
	サービス担当者会議・ケース会議		0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	2

地域ケア会議	地域ケア会議 ＜個別ケース検討＞	0	0	2	0	2	1	0	0	0	0	2	0	7
	地域ケア会議 ＜地域課題検討＞	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

この事業報告書は原本と相違ないことを証明します。

平成 29 年 6 月 16 日

東京都小平市小川西町 2-35-2
社会福祉法人緑友会
理事長 菅 野 徹 夫